

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	女性アスリートの育成・支援プロジェクト			担当部局庁	スポーツ庁	作成責任者			
事業開始年度	平成25年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	競技スポーツ課	競技スポーツ課長 南野 圭史			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	第3期スポーツ基本計画(令和4年3月25日策定) 持続可能な国際競技力向上プラン(令和3年12月27日策定) 男女共同参画基本計画(令和2年12月25日閣議決定) 成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針(令和3年2月9日閣議決定)				
主要政策・施策	男女共同参画			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	ジュニア層を含む女性アスリートが健康に競技を継続できる環境整備のため、無月経をはじめとする女性アスリートの三主徴や妊娠・出産などの課題に対応した科学的根拠に基づくサポートの充実やジュニア世代のアスリートや指導者の理解促進を図ることを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	○トップアスリートへの支援として、産前産後の競技復帰に向けたトレーニング指導等の医・科学サポートや育児と競技を両立するための託児等の支援、相談窓口の設置・運営などを実施する。また、女性の視点とアスリートとしての高い技術・経験を兼ね備えた女性エリートコーチを育成するプログラムを実施する。 ○女性の健康課題に対応した年代別・競技別のマニュアル策定や女性アスリート支援情報プラットフォームの構築などに取組み、中高生を含むジュニアアスリートへの対応の充実を図る。								
実施方法	委託・請負								
予算額・執行額 (単位:百万円)			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	211	211	196	200			
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計		211	211	196	200	0		
	執行額		210	200	190				
	執行率(%)		100%	95%	97%				
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		100%	95%	97%				
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由					
	スポーツ振興事業委託費	199.6							
	諸謝金	0.2							
	職員旅費	0.1							
	委員等旅費	0.1							
	庁費	0							
	計	200	0						
活動内容 (アクティビティ)	身体的・心理的な課題を抱えている女性のトップアスリートを対象に、婦人科医や専門家が連携した相談体制を整備する。また、女性アスリートが心身ともに健康に競技活動が継続できるよう産前産後の競技復帰に向けたトレーニングサポートや育児サポート等の支援プログラムを実施する。								
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	産前産後のトレーニング指導等の医・科学サポートを通じて、女性トップアスリートが健康に競技を継続できる環境を整備	産前産後期のトレーニング指導等の医・科学サポート数(延べ数)	活動実績	件	316	126	153	-	-
			当初見込み	件	-	-	-	150	-
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	女性アスリート支援プログラム事業執行額/産前産後期のトレーニング指導等の医・科学サポート数			単位当たりコスト	円	204,201	425,380	309,990	400,000
			計算式	円/件	64,527.827/316	53,597.909/126	47,428.559/153	60,000,000/150	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 6年度	目標最終年度
	女性アスリートが安心して競技を継続できる環境整備	産前産後期のトレーニング指導等の医・科学サポートの満足度	成果実績	%	-	-	-	-	-
			目標値	%	-	-	-	80	-
			達成度	%	-	-	-	-	-

根拠として用いた統計・データ名 (出典)	産前産後期のトレーニング指導等の医・科学サポートを行った選手を対象に実施するアンケート結果								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	産前産後のトレーニング指導等の医・科学サポートを通じて、女性トップアスリートが健康に競技を継続できる環境を整備	産前産後期のトレーニング指導等の医・科学サポート事例を中央競技団体へ展開した実績(講習会、事例伝達)	活動実績	件	269	306	239	-	-
			当初見込み	件	-	-	-	250	-
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	女性アスリート支援プログラム事業執行額/産前産後期のトレーニング指導等の医・科学サポート事例を中央競技団体へ展開した実績	単位当たりコスト	円	239,880	175,156	198,445	240,000		
		計算式	円/件	64,527,827/269	53,597,909/306	47,428,559/239	60,000,000/250		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 6年度	目標最終年度 年度
	産前産後のトレーニング指導等の医・科学サポートを通じて、女性トップアスリートが健康に競技を継続できる環境を整備	・中央競技団体において、女性アスリート支援の担当者が配置される	成果実績	%	-	-	-	-	-
			目標値	%	-	-	-	90	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	中央競技団体を対象にしたアンケート調査を実施								
活動内容 (アクティビティ)	女性の視点とアスリートとしての高い技術や経験を兼ね備えた女性エリートコーチを育成するため、強化現場での実践経験やコーチングスキルを習得するための学習機会を提供する育成プログラムを策定・実施する。またパラリンピック競技に特化したエリートコーチ育成プログラムを策定するため、課題抽出やプログラム構築に取り組む。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	女性エリートコーチ育成プログラム受講者の増加	受講者数	活動実績	人	8	12	12	-	-
			当初見込み	人	8	12	12	16	-
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	女性エリートコーチ育成プログラム/受講者数	単位当たりコスト	円	2,533,236	1,770,872	2,028,048	2,437,500		
		計算式	円/人	20,265,886/8	21,250,471/12	24,336,579/12	39,000,000/16		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 6年度	目標最終年度 年度
	ナショナルチームで指導する女性コーチの増加	プログラム受講者がナショナルレベルで指導する割合	成果実績	%	-	-	17	-	-
			目標値	%	-	-	30	50	-
			達成度	%	-	-	56.6	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	目標値の30%は、第5次男女共同参画基本計画の目標値「指導的地位に女性が占める割合が2020年代の可能な限り早期に30%程度となることを目指す」を参考に設定。								
活動内容 (アクティビティ)	女性アスリートが抱える健康課題等に関する調査研究や支援プログラム等の成果や知見を、実際に強化現場などで使用できるよう、競技特性や各種課題に対応したものとして整理したマニュアルやプログラムを作成するとともに、それらを用いた実践的な事業を実施する。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	女性アスリートの健康課題に対応した、年代別・競技別のマニュアル等を策定し、それを用いた実践的な事業を実施	年代別・競技別マニュアルの策定	活動実績	件	-	-	-	-	-
			当初見込み	件	-	-	-	4	-
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	女性アスリートの課題解決型実践プログラム/年代別・競技別マニュアルの策定数	単位当たりコスト	円	-	-	-	25,000,000		
		計算式	円/件	-	-	-	100,000,000/4		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 6年度	目標最終年度 年度
	女性アスリートの健康課題に配慮して行われる指導の割合向上	選手・指導者における女性アスリートの健康課題に配慮した指導・トレーニングの必要性の認識の向上	成果実績	%	-	-	-	-	-
			目標値	%	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-	-

根拠として用いた統計・データ名(出典)		R4年度実施予定の「中学校部活動における女性アスリートの健康課題に配慮した指導及び学生の実態調査」の結果を踏まえ設定する。		
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載				チェック
政策評価 政策 施策	政策	11 スポーツの振興		
	施策	11-3 国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備	政策評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_11-3.pdf
			該当箇所	施策目標11-3-3
事業所管部局による点検・改善				
	項目	評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	第3期スポーツ基本計画や第5次男女共同参画基本計画において、スポーツを通じた女性の活躍促進として、女性トップアスリートへの支援が謳われており、女性アスリートが競技力向上を図りながら健康に競技を継続できる環境整備や、競技引退後も活躍できるような支援の充実が求められているため。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	ジュニア層を含む女性アスリートの身体的・心理的な課題への対応については、地方自治体、民間等において支援の手法が確立されていないため、JSCや大学機関等と連携し、国が総合的に取り組む必要がある。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	我が国の重要かつ確固たる方針である「男女共同参画」において、スポーツを通じた女性の活躍を目指す本事業は政策の優先度が極めて高い事業である。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出(委託)先の選定にあたっては、十分な公募期間を確保した上で公募(企画競争)を実施しており、公平性や競争性を確保しているところである。	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	また、契約にあたっては、事業経費の費目・用途の内容を厳正に審査するなど、その必要性や妥当性について適切に確認を行っている。複数年事業については、初年度は企画競争による公募を実施し、2年目は随意契約となるが、事業遂行内容を適宜確認し、継続の妥当性を精査している。	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	国が主体となって実施すべき事業であるため、委託契約により国が負担することが妥当なものである。	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	費目・用途は事業実施のための委託費であり、公募要項においても用途の詳細等を定めることとしているため、必要なものに限定されていると認められる。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	全ての事業において、主に委託先が業務に必要な活動・人件費等の支出を行っており、一部専門技術を要する業務について専門業者等へ再委託を行っている。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	費目・用途は事業実施のための委託費であり、公募要項等に置いても用途の詳細等を定めることとしているため、真に必要なものに限定されていると認められる。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	令和3年度まで実施してきた「女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究」については、これまで40課題テーマに取り組んできており、一定程度の成果や知見が集積されたため、令和4年度より実践型の事業「女性アスリートの課題解決型実践プログラム」へと組換えを行った。女性アスリート支援に関する知見やノウハウを効率的に強化現場へ還元できるよう取り組むこととしている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	△	これまでのトップレベルの女性アスリートに対する取組により、月経などのコンディショニングに関する理解や認知が進んできた。今後は、ジュニア層や中学校部活動への普及啓発や産前産後のトレーニングサポート等の充実に取り組んでいくこととしている。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	健康課題を抱える女性アスリートやその指導者等に対して、スポーツ医学分野を中心とした専門的なサポートを行っているため、実施できる手段や委託先は限定的であるが、令和4年度は事業の組み換えを行うなど、毎年度、効率的な事業運営に向けた見直し・改善を図っている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	全項目において、見込みに見合った活動実績となっている。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	カンファレンスや情報の一元化により、成果物が活用されるよう情報発信に努めてきた。令和4年度は、女性アスリート支援に関する情報を集約し、わかりやすくまとめたオンラインプラットフォームの構築に取り組むこととしている。	

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				○	当該事業は女性アスリートが健康に競技を継続できる環境を整備することを目的としており、女性のスポーツ実施を促進させることを目的とする「Sport in Life推進プロジェクト」とは役割が異なる。
	事業番号				事業名	
	2022	文科	21	0322	Sport in Life推進プロジェクト	
点検・改善結果	点検結果	本プロジェクトは、女性アスリートが抱える健康課題や妊娠・出産等のライフイベントと競技の両立などへの支援を通して、女性アスリートが健康に競技を継続できる環境整備に取り組んできた。これまでの取組により知見や成果が集積されたため、選手や指導者の活用が促進されるよう、令和4年度より実践的なプログラムへと組み換えを行った。事業の公募においては、女性アスリートの実態に即した課題解決や支援となるよう、昨年11月に各委託先と意見交換会を開催し、現場のニーズや実情を把握した上で実施した。				
	改善の方向性	令和4年度取組や実態調査を踏まえ、目指す成果と手段がより具体的となるよう検討を進める。また、公募において一者応札となった案件があったため、今後仕様内容と公募期間の改善を図る。				
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
<p>平成29年度公開プロセス対象事業 331女性アスリートの育成・支援プロジェクト「事業全体の抜本的改善」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業内容はすばらしいが、目的と手段の関係が整合していない 事業目的と手段について明確にするため、直接的な女性トップアスリートの競技力向上を図る「女性アスリート強化プログラム」については別事業に移管した。 ●健康問題と競技レベルアップ問題が混在しているため、事業内容について契約面も含めて整理をする必要がある 女性アスリートが健康で競技スポーツを継続できる環境を整備する内容として整理し、直接的な強化を図る「女性アスリート強化プログラム」は別事業に移管した。 ●JSCに対する一括請負の内容についても、対外的にわかりやすく説明できるよう検証と見直しが必要である 令和2年度より「女性エリートコーチ育成プログラム」及び「女性アスリート支援プログラム」の事業を分割し、JSCに限らず実施している。 ●調査研究について、政策として必要なものに限定した取組が必要である 競技団体等と連携し、強化現場に還元することを主目的とした調査研究を新たに導入した。 ●本事業と並行して、女性アスリート全体における女性特有の課題を踏まえた支援事業を実施する必要がある 女性アスリート全体の相談・受診環境改善に向け、産婦人科などを対象に女性アスリート特有の課題等に関する知識の普及のための講習会を開催する「女性スポーツ医学普及啓発プログラム」を実施した。 <p>○本事業に係る関連情報掲載場所 スポーツ庁HP「女性アスリートの育成・支援プロジェクト」 http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop07/list/1411047.htm</p>						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成23年度	-					
平成24年度	-					
平成25年度	新25-0030					
平成26年度	352					
平成27年度	344					
平成28年度	323					
平成29年度	331					
平成30年度	332					
令和元年度	文部科学省	-		0326		
令和2年度	文部科学省			0323		
令和3年度	2021	文科	20	0342		

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

スポーツ庁 189.7百万円

職員旅費等 0.1百万円を含む

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等における女性アスリートの活躍に向けた支援や、ジュニア層を含む女性アスリートが健康でハイパフォーマンススポーツを継続できる環境を整備するために、女性特有の課題の解決に向けた調査研究や、医・科学サポート等を活用した支援プログラムなどを実施する。また、女性特有の視点とアスリートとしての高い技術・経験を兼ね備えた女性エリートコーチを育成するプログラムを実施する。

【随意契約(企画競争)・委託】

A. 女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究:
69.0百万円
学校法人新潟総合学園他
(全7団体)

【随意契約(その他)・再委託】

D. 女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究:
2.0百万円
独立行政法人日本スポーツ振興センター

【女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究】

ハイパフォーマンススポーツにおける女性アスリートが直面する身体的・心理的・社会的な課題解決に向けた、女性アスリートの競技力向上に資する調査研究を実施し、その成果を女性アスリートや指導者等の強化現場に還元する。

【随意契約(企画競争)・委託】

B. 女性アスリート支援プログラム:
96.4百万円
独立行政法人日本スポーツ振興センター他(全3団体)

【女性アスリート支援プログラム】

- ・女性が抱えるの疾患、障害、疾病等における医・科学サポート
- ・成長期における医・科学サポート(ジュニアアスリートや保護者・指導者向け講習会等含む)
- ・妊娠期、産前産後におけるトレーニングサポート
- ・女性アスリートの課題や知見について研究者・アスリート・指導者等で共有するカンファレンスの開催
- ・女性アスリートの相談窓口

【随意契約(企画競争)・委託】

C. 女性エリートコーチ育成プログラム:
24.3百万円
日本体育大学

【女性エリートコート育成プログラム】

- ・中央競技団体等と連携したトップレベル競技現場におけるコーチング機会の創出
- ・メンター等による相談体制の構築
- ・スポーツ医・科学やコーチング等の教育・研修プログラムの策定・実施

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・用途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)

A.学校法人新潟総合学園			B.独立行政法人日本スポーツ振興センター		
費目	用途	金額(百万円)	費目	用途	金額(百万円)
設備備品費	三次元足型自動計測機、EinscanPro HD	4	人件費	契約職員、非常勤職員	22.8
人件費	リサーチアシスタント	1.7	雑役務費	学会参加費、英日翻訳、育児サポート費	8.7
消耗品費	唾液採取機器、排卵キット、唾液分析キット	1.2	旅費	国内旅費	4.7
雑役務費	唾液分析費、英文校正費	1.2	諸謝金	外部協力者	4.6
一般管理費	事業全体の10%	1	消費税相当額	人件費、諸謝金	2.6
諸謝金	被験者謝金	0.6	一般管理費	事業全体の4.95%	2.2
消費税相当額	人件費	0.2	印刷製本費	報告書、栄養冊子	1.2
			その他	会議費、消耗品費、借損料	0.6
計		9.9	計		47.4
C.日本体育大学			D.独立行政法人日本スポーツ振興センター		
費目	用途	金額(百万円)	費目	用途	金額(百万円)
人件費	特別研究員、事務補助員	10	消耗品費	調査に係る消耗品一式	2
雑役務費	託児委託、保険加入、PCR検査 等	7.5			
一般管理費	事業全体の10%	2.2			
旅費	国内旅費、国外旅費	1.5			
諸謝金	講師	1.3			
消費税相当額	人件費	0.9			
借損料	施設利用、PCリース	0.7			
その他	消耗品、通信運搬費	0.2			
計		24.3	計		2

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

